

学 校 教 育 目 標	たがいに努める子（やる気） たがいにきたえる子（元気） たがいに手をとる子（勇氣）
目 指 す 学 校 像	信頼を土台に一人ひとりが輝ける学び舎
重 点 目 標	1 児童の学びの過程を重視し、児童を主語とした指導の充実 2 児童一人ひとりに「心の居場所」がある学校 3 コミュニティ・スクールを核とした学校と保護者、地域との絆の強化 4 安心安全で気持ちの良い教育環境と心理的安全性の高い人間関係、 5 教育の「プロ」としての自覚をもち機動力のある組織と持続的に成長し続ける教職員集団

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	学びの質の向上に関する取組 <現状> ○令和6年度のさいたま市学習状況調査では、国語科は全体的には市平均と概ね同程度であったが、算数は平均をややや下回る結果となった。 ○国語科の「書くこと」の結果が向上している。 <課題> ○国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がある。 ○算数の「数と計算」「データの活用」に課題がある。 ○個人差に対応するためにも、個に応じた指導を充実させていく必要がある。	・基礎基本の確実な定着を目指す指導の充実	①アナログとデジタルを併用し、児童一人ひとりの課題に合った学習を進めるよう指導を行う。 ②授業のねらいや評価基準を児童と共有し、児童主体の振り返りを行う。	①児童一人ひとりの課題に応じた指導の工夫と時間の確保が実行できたか ②児童が自己の学習を振り返り、自らの学習状況を把握し、達成に向けて主体的に学びを進めることができたか。					
		・自立した学び手を育成することを目指した授業改善	①一人1台端末を効果的に活用し、「自立した学び手」を育成することを目指した授業の研究と実践を行い、成果と課題を共有し更なる授業改善を行う。	①一人1台端末を効果的に利用することができたか。 ②児童が「自立した学び手」として主体的に学習に取り組む授業改善に取り組むことができたか。					
2	心の子どもの発達やサポートに関する取組 <現状> ○いじめの認知を積極的に行い、早期発見し指導と見守りを行い解消につなげている。 ○生徒指導、教育相談に組織的に取り組み、教職員間での情報共有ができている。 <課題> ○「三つの基本(あいさつ、靴のかかとそろえ、チャイム着席)」の指導の徹底を継続的に行う。 ○人間関係づくりに悩む児童への支援や指導を丁寧に行っていく必要がある	・「心の居場所」のある学校づくり	①全教育課程で道德教育の充実を図り、児童が自ら考え行動する力を養う。 ②教育相談や校内教育支援センター(さくら教室)による継続的な支援の充実	①道德推進教師を中心に各学級での「考え議論する道德」への授業改善が行われていたか。 ②教育相談に関わる各セッションを適切に運営していたか。					
		・基本的な生活習慣や規範意識の定着	①「三つの基本(あいさつ、靴のかかとそろえ、チャイム着席)」の指導の徹底。 ②課題を小さなうちに発見し、迅速に丁寧に対応する生徒指導の徹底。	①学校生活の様々な場面で「三つの基本」の指導を継続的に字思惟したか。 ②諸課題に対し迅速で丁寧な対応を行い解決に導くことができたか。					
3	学校地域とともに関する取組 <現状> ○コミュニティ・スクールとして『つなげよう あいさつ 伝えよう ありがとう 深めよう きずな~学校・家庭・地域が手を取り合って~』のもと地域・保護者との協働活動に取り組んでいる。 <課題> ○環境美化の協働活動は指導したばかりのため、自走しながら工夫改善が必要になる。 ○教育活動やコミュニティ・スクールの活動の情報発信をさらに積極的に行う必要がある。	・顔の分かる関係をつくる持続的な協働活動の実施	①地域で自分らしさを発揮できる子どもたちの育成に向けて、お互いに顔の分かる協働活動(環境美化)を実践する。 ②各自治会や防犯ボランティア等と積極的に連絡・連携し安心安全な地域づくりに寄与する。	①協働活動(環境美化活動)を具体的に計画し実践することができ、地域や保護者との顔の分かる関係が広がったか。 ②各自治会や防犯ボランティア等との連絡・連携を図り、具体的な共同行動を実行することができたか。					
		・開かれた学校づくりの推進	①地域や保護者に直接教育活動を参観していただく公開の機会を増やす。 ②各たよりやホームページの他、様々な手段による学校からの情報発信を実行する。	①昨年度よりも公開の機会を増やし、実施することができたか。 ②情報発信の機会を充実させることができたか。					
4	教育環境の整備に関する取組 <現状> ○施設は日々の点検や月毎の安全点検の結果から早期対応することで、施設の修繕漏れによる事故は起きていない。 ○怪我の減少に向けて取り組んでいるが、昨年度は発生数に減少傾向がみられなかった。 <課題> ○安心・安全な教育環境の中で児童が心豊かに過ごすことができるよう、怪我の防止や施設の安全とともに、心理的安全性も高めていく必要がある。	・施設や備品の安全管理の徹底	①安全な学校生活を繰り返し指導するとともに、怪我や急病等が発生した場合には即時適切な対応と保護者への連絡を徹底する。 ②事故の可能性を想定した確実な安全点検、校内整備を計画的に実施し、不備の場合は迅速な対応を行う。	①怪我の大小にかかわらず、発生時には保護者との連絡を迅速に丁寧に行うことができたか。 ②施設設備の状況や備品の管理状況を常に把握し組織的な対応をすることで安全な教育環境を維持できたか。					
		・安心・安全で美しい教育環境の整備	①普段の清掃活動だけでなく、通常時の整頓やごみ拾い等を教職員が率先して行いながら指導することで気持ちの良い環境を整える。 ②言語環境を整え心理的安全性を高める。	①教室等が、学習を行う場にふさわしく清潔で整えられた環境を維持できていたか。 ②言語環境を整え心理的安全性を高められたか。					
5	教職員のキャリア形成に関する取組 <現状> ○教職員が授業でのICTを活用する場面は確実に増加している。 ○新たな学校課題やその他の校内・校外の研修に参加し、資質向上に努めている。 <課題> ○個別最適な学びと協働的な学びについて更に研修を深め、児童の実態に合わせて実践していく。 ○ICTの活用について、更に研修を深めていく必要がある。 ○3分の1の教員に在校時間が長くなる傾向がある。	・教育実践を通じた指導力の向上	①新たな研究主題による学校課題研究を組織的に実施し指導力の向上を図る。 ②自立した学び手を育む授業(ICTの活用含む)について、各教員がそれぞれ実践と情報交換を行うことで指導力の向上を図る	①全教員が実践を行い情報交換する研修会を設定し実施できたか。 ②学校評価の教職員の教科指導や生徒指導等に関する項目について、十分満足の回答が前年より増加したか。					
		・組織的で機動力がある学校 ・働きがいのある学校	①学年や分掌の主任の役割を整理し、より組織的で機動力のある教職員組織を育成する。 ②それぞれがプロ教師としての働きがいを見出しながら、協体制度と心理的安全性も高い教師集団を育成する。	①各主任を中心として効率的に仕事内容を整理し、機動的な学年組織がつくられたか。 ②ストレス検査や各調査結果、日頃の会話の様子等から、客観的に良好な状況と判断することができるか。					